

評価・批評を推敲に生かす

1 指導のねらい

- (1) 書いた文章を互いに読み合い、評価・批評することができる。
- (2) 書いた文章を読み返し、文や文章を整えて書くことができる。
- (3) 文章の内容を正確にとらえ、タイトル(題)として要約することができる。

2 指導過程

学習活動と発問 (発は発問)	指導上の留意点と評価 (評は評価)
<p>(1) 「走れメロス」(太宰治)の読後の感想を交流し合う。 (読書記録をもとに、お気に入りの本・作品を紹介することを導入としてもよい。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろかった点、印象に残った点を交流させる。 ⑩ 進んで学習活動に取り組もうとしているか。
<p>(2) 資料「高田さんが書いた『走れメロス』の紹介文」を声に出して読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を配布する。
<p>(3) 資料の第一段落について、評価し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の一部を引用しながら紹介している点や自分たちの身近なところにも存在する課題であることを指摘している点などについておさえない。
<p>⑩ 高田さんの紹介文の第一段落は、たいへんうまく書かれている。どんな点がうまいか、発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ うまく書かれている点をとらえて紹介文を評価しているか。
<p>(4) 資料の第二段落について、評価し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第二段落の四文目の主・述の関係が不適切である。文末表現を推敲させたい。 乗り越えるのです → 乗り越えさせるのです
<p>⑩ 高田さんの紹介文の第二段落には、書き直した方がよい一文がある。どの一文だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ ふさわしい文末表現に書き換えられているか。
<p>⑩ この一文の文末を推敲しよう。どのように直せばいいだろう。</p>	
<p>(5) 資料の [] の部分に、この紹介文にふさわしいタイトル(題)をつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高田さんがこの紹介文で伝えようとしたことの中心をつかませ、最もふさわしいタイトル(題)を選択させたい。 ・選択肢として次の四つを示す。答えはエ。 ア よくやったぞ!メロス! イ 王を信じてはならぬ!メロス! ウ 友を救い出せ!メロス! エ 不信に打ち勝て!メロス!
<p>⑩ この紹介文の [] の部分には、この紹介文のタイトル(題)が入る。次の四つのうち、どれが一番ふさわしいか。その理由とともに発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 紹介文の内容を正確にとらえてタイトル(題)を選んでいるか。
<p>(6) それぞれが読んだ作品の「紹介文」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習プリントを使って、高田さんの紹介文を参考に、120字~160字の紹介文を書かせる。その際、作品の一部を引用しながら紹介するという条件を示す。
	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 作品の一部を引用しながら紹介文が書けているか。
<p>(7) できあがった「紹介文」を読み合い、互いに評価し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 進んで評価活動に取り組んでいるか。

資料

高田さんが書いた「走れメロス」の紹介文

「人の心は、当てにはならない。人間はもともと私欲のかたまりさ。信じては、ならぬ。」

これは、孤独な王、ディオニスのつぶやきです。この王の思いは、なにも彼独特の特別な思いではないと私は思います。私たちも、日常生活の中で一度は「人間なんて、みんな自己中心的で、身勝手な者ばかり。」という「不信」の思いを心の中に抱き、落ち込んだ経験があるのではないのでしょうか。

そんな王に、そんな私たちに、そして自分自身に、友との約束を守るために走りながら、メロスは吠えます。「わたしは信頼に報いなければならぬ。走れ、メロス！」と。心の中に巣くう「不信」というものに、懸命に打ち勝とうとするメロスの姿は、私たち自身の姿とも重なります。人を信じる自分、人に信じられる自分であるとうとする強い気持ちだが、数多くの苦難をメロスに乗り越えるのです。読み進めていくうちに、知らぬ間に「負けるな、がんばれ！」の声援をメロスにおくっていました。

読後の爽快感がたまらない太宰治の短編です。

高田さんの学級では、「走れメロス」(太宰治・作)を紹介する文章を書き、うまく書けたかどうかを班の人たちと互いに評価し合いました。次は、高田さんが書いた紹介文です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【高田さんが書いた「走れメロス」の紹介文】

「人の心は、当てにはならない。人間はもともと私欲のかたまりさ。信じては、ならぬ。」
 これは、孤独な王、ディオニスのつぶやきです。この王の思いは、なにも彼独特の特別な
 思いではないと私は思います。私たちも、日常生活の中で一度は「人間なんて、みんな自己
 中心的で、身勝手な者ばかり。」という「不信」の思いを心の中に抱き、落ち込んだ経験が
 あるのではないでしょうか。

そんな王に、そんな私たちに、そして自分自身に、友との約束を守るために走りながら、メロ
 スは吠えます。「わたしは信頼に報いなければならぬ。走れ、メロス！」と。心の中に巣くう「不
 信」というものに、懸命に打ち勝とうとするメロスの姿は、私たち自身の姿とも重なります。②
 人を信じる自分、人に信じられる自分であるうとする強い気持ち、数多くの苦難をメロスに乗
 り越えるのです。読み進めていくうちに、知らぬ間に「負けるな、がんばれ！」の声援をメロス
 におくっていました。
 読後の爽快感がたまらない太宰治の短編です。

一 高田さんの紹介文について、班の人たちは、①の部分については、「うまく書けている。」という評価をしました。そのような評価になった理由は、どのようなことだと考えられますか。五十字以内で説明しなさい。

二 高田さんの紹介文について、班の人たちは、傍線部②については、「この一文は、文末の部分を書きなおした方がよい。」という評価をしました。どのように書き直せばよいですか。次に続けて、書き直しなさい。

強い気持ち、数多くの苦難をメロスに

三 高田さんの紹介文について、班の人たちから「この紹介文にタイトル(題)をつけるといいのではないか。」というアドバイスがありました。どのようなタイトル(題)がふさわしいですか。次のア～エの中から、最もふさわしいもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア よくやったぞ！メロス！
 友を救い出せ！メロス！

イ 王を信じてはならぬ！メロス！
 エ 不信に打ち勝て！メロス！

◎出題のねらい

- ・書かれた文章を評価・批評しながら読むことができるかどうかをみる。
- ・文の構成を確かめ、正しく推敲することができるかどうかをみる。
- ・文章の内容を正確にとらえ、タイトルとして要約することができるかどうかをみる。

【解答例】

一 (例)

作品の一部を引用しながら、自分たちの身近なところにも存在する課題であることを指摘できているから。(四十八字)

* 「うまく書けている」という評価の理由として、①作品の一部を引用して分かりやすく書けていること、②自分の体験と結びつけて自分たちの身近な課題であることを指摘していること、③読み手に問題提起させて考えさせていることなどがあげられる。これらのうち、複数あるはいずれかを満たして五十文字以内で説明しているものを正答とする。

二 (例)

(強い気持ちだが、数多くの苦難をメロスに) 乗り越えさせるのです。

三 エ